

## 研究室紹介

### 飛鳥資料館・学芸室

飛鳥資料館は、1970年12月「飛鳥地方における歴史的風土および文化財の保存等に関する方策について」の閣議決定がなされ、それに基づいて明日香村に設置されることになりました。1973年に当時の春日野庁舎に庶務室と学芸室が発足し、開館の準備に向けて動きはじめ、閣議決定から5年後の1975年に開館の運びとなりました。開館当時の常設展示は、第1展示室のみで「宮殿、寺院、古墳、石造物、万葉集」のコーナー、高松塚古墳の出土遺物を展示した特別コーナーを設けていました。その後、1981年から発掘調査で掘り出された山田寺東回廊の一部を倒壊以前の形で再現展示するための第2展示室の新設が検討されました。1993年から翌年の6月にかけて増改築工事がおこなわれ、後の1996年になって第2展示室に山田寺東回廊が再現され、現在に至っています。

飛鳥資料館では、年に2回、春と秋に定期的な特別展示、不定期に開かれる企画展示を通じて、日ごろの調査研究の成果を公開しています。2002年度は、春の特別展示として、飛鳥地域の飛鳥時代以前の出土物を展示した「あすか以前」を、夏期には企画展示として含水居蔵鏡の代表的なものを展示した「鏡の歴史－含水居蔵鏡の世界－」を、秋の特別展示としては国宝・重要文化財の修理時に作成される保存図を中心とした「A0の記憶－文化財建造物保存図－」をそれぞれ開催しました。学芸室では、このような展示会の企画立案から展示物の借用および展示方法の検討ならびに図録の編集・執筆をおこなうとともに、飛鳥資料館を訪れた方への展示解説や、質問への対応、所蔵品の貸し出し業務などを主におこなっています。

また、これまでおこなってきた特別展示の図録をはじめとして、日本語、英語、韓国語の3カ国語による飛鳥史ガイドブック『飛鳥資料館案内』を発行するほか、ハイビジョン映像による解説番組「遙かなる飛鳥の時代」「山田寺東回廊」「飛鳥の石造物」「飛鳥の古墳」「飛鳥の宮」をDVDとして、英語、中国語、韓国語の解説付で製作、販売などの普及活動もおこなっています。 (飛鳥資料館 西山和宏)